

# 中京大学 第10回研究交流会

日時：2017年7月31日(月) 16:30~18:00

場所：中京大学名古屋キャンパスアネックス(16号館)6階 アネックスホール

(参加自由、無料)

## 研究発表(順不同)

---

### ①文化科学研究所

発表者：  
松元洋介(国際英語学部講師)

テーマ：助動詞のより深い理解を目指した指導法について

要旨：外国語として英語を学習する際に学習者の直面する困難の一つとして、一つの単語あるいは表現が多様な意味・用法を持つということが挙げられる。そのような単語・表現には対応する日本語訳を覚えさせるという指導がなされることがある。本発表で扱う助動詞もその代表である。本発表では助動詞の持つ特殊な意味・用法に注目し、それらの従来の指導法の問題点を指摘し、助動詞の理解を深める指導法を英語史と意味論の観点から提案する。英語史の観点からは、助動詞が語彙的要素から機能的要素へ文法化したこと、それに伴い話し手の心的態度を表す表現になったことを示す。意味論の観点からは、その心的態度がどのようなものであるかを示す。

### ②企業研究所

発表者：  
伊藤清道(国際英語学部客員教授)

テーマ：大学における実践的教育とはなにか？

要旨：文部科学白書は「大学におけるキャリア教育充実の必要性」を指摘し、日本政策会議の未来投資戦略2017も「人材育成を行う供給サイド(大学等)が産業界のニーズを踏まえたサービスを提供する仕組みが十分構築されていない」と指摘する。いわゆる、より実践的な教育を求める声は少なくないが、単に資格講座を充実させる等の対策だけで、この問題が解決されるようには思えない。我々大学人は、産業界の声にどう応えていくべきなのか、みなさまと共に考えたい。

### ③法曹養成研究所

発表者：  
福本博之(法科大学院教授、所長、弁護士)

テーマ：GPS捜査等に関する判例の動向

要旨：警察が捜査対象者の車両に密かにGPS端末を取り付け、その位置情報を把握するGPS捜査を中心とする、いわゆる「追尾監視型捜査」について、従来の判例の考え方、及びGPS捜査に関して近時出された最高裁(大法廷)判決(平成29年3月15日)を検討するとともに、「新たな捜査手法」として刑訴法の一部改正により導入された捜査にも触れながら、今後の刑事事件における捜査の在り方について考えてみたい。